

協会だより

第30号

平成26年2月3日発行

福岡県立学校事務職員協会

会長の年頭挨拶

「春夏秋冬」

新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましては、どのような正月を過ごされたでしょうか。定期監査も終了し、穏やかな新年を迎えられたことと存じます。大晦日には、泉谷しげるさんが紅白歌合戦に初出場し、彼の代表曲のひとつである「春夏秋冬」を熱唱されました。「季節のない街に生まれ、風の丘に育ち・・・」という歌詞で始まるのですが、若い方は知らないでしょうねえ。昭和47年(1972年)の発表で、高校生のとき下宿していて、深夜ラジオのオールナイトニッポンで聞いていたものでした。

さて、平成25年11月22日(金)に「国立オリンピック記念青少年総合センター」で開催された「全国協会理事会」の報告をいたします。また同日、同会場で、全国協会主催の「中堅事務職員研修会」も開催されており、本県は4名が参加されました。その報告はこの協会だよりに掲載されていますので熟読ください。

- (1)平成25年7月25日(木)～7月26日(金)に開催された第66回全国大会(岐阜大会)の報告があり、917名の参加と3分科会9本発表がありました。
- (2)この岐阜大会優秀研究発表者の表彰が功労者表彰内規により選考され、大阪市、富山県、三重県の3本の発表に決定しました。
- (3)平成26年度全国大会は、岩手県盛岡市で平成26年7月24日(木)～7月25日(金)の2日間開催されます。3分科会8本の発表予定です。この岩手大会では、初めての試みとして『東日本大震災被災地視察』があります。平成23年3月11日(金)に発生した東北地方太平洋沖地震で、特に津波による被害が大きく未だ復興は思うように進んでいない状況で被災者の話を聞き、自然災害の脅威、災害に対する備え等を認識するよい機会です。実施日は平成26年7月23日(水)です。県内視察費用のバス代金は全国協会本部が負担しますが弁当代は自己負担です。各県協会より1名～2名程度を予定し、募集案内は3月～4月に行います。
- (4)『日本教育事務学会』の設立総会が平成25年12月8日(日)東京大学教育学部にて開催され、これに賛同する者約200名が参加。事務局は「学事出版(株)」です。
- (5)新聞発表等でご存知のように高校授業料が見直しされ、平成26年度入学生から市町村民税所得割額が30万4,200円(年収910万円)以上の世帯には授業料が徴収されます。学年進行で実施されていくこととなりますが、その詳細な事務取扱について財務課が検討を行っているところです。これまでとは違う事務取扱になります。

ところで皆さんは、自分が勤務している学校の歴史、校訓等をご存知ですか。10月に開催された福岡地区初任者研修会で、講師をされた校長先生から①心構え ②学校の特色 ③地域を知る ④教員を知る ⑤私学を知る という5つのことを話されました。教員の目からみた事務職員としての姿勢、心構えが大変参考になりました。初心に帰り、これらのことを考えながら日々の業務を遂行していきたいと思えます。

鴨長明の「方丈記」の冒頭の一文で始まる「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」と

ありますように、春夏秋冬の季節は毎年、繰り返し訪れますが、その中で働く学校事務の仕事は毎年、少しずつではありますが変化しています。共同契約や長期継続契約、集約発注などが導入され、また「監査対策点検会議」も実施されています。本協会としてもこれらの業務が適切に行われるよう研修の機会を設け、会員の皆様からの提案や工夫等の情報をお聞きして、積極的に会員の資質の向上や事務改善に取り組んでいきたいと考えております。定時制事務職員を対象にした研修会なども来年度には実施したいと考えています。また、飲酒運転、違法な薬物使用などと県職員の不祥事が発生しました。教育長から二度と発生しないよう全力で取り組むとの通知がありました。今後はこのようなことがないように、職員一人ひとりがこれまで以上に真摯に取り組んでいかなければなりません。泉谷しげるさんの「春夏秋冬」歌詞の最後に「今日ですべてが終わるさ、今日ですべてが変わる、今日ですべてがむくわれる、今日ですべてが始まるさ」と。

今年度も残すところ、あと2か月となりました。入試、卒業式、人事異動等年度末のたいへん忙しい時期を迎えることとなりますが会員の皆様方におかれましては健康に十分留意され、「明るい事務室」をモットーに平成26年も頑張っていきましょう。

(会長 浜田 富士満)

各 地 区 活 動 報 告

●北九州地区 (会長 桑原 利治)

北九州地区では、業務の改善について研究を行い、また自発的研修を行うことにより、学校間の連携と事務職員の資質、職務遂行能力の向上を図ることを目的として活動しています。

本年度の事業は、「実務研修会」・「地区別研修会」・「パソコン研修会」・「新規採用事務職員等研修会」を実施しています。さらに、活動の充実を図るため、今年度も北九州地区県立学校事務次長・主査会共催による「次世代を担う若者育成塾」を実施しました。これら協会の活動に際しましては、今後も、会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【主な研修会の概要】

「実務研修会」は、財務課から講師を迎え、「会計事務地域点検会議の質疑」について研修を行いました。事前に取りまとめた質問事項への回答や、随時監査での指摘等の事例を説明していただきました。その後、5班に分かれて「定期監査報告」を行い、定期監査や会計指導での注意点等の結果報告、意見交換を行いました。

日常業務を遂行するうえで大変参考となる実務的な内容で、有意義な研修を行うことができました。

県教育委員会との共催による「地区別研修会」では、前半は、生涯学習講師を迎え、「人・健康・環境～人づきあい・笑って健康・環境と健康～」という演題で講話をしていただきました。後半は、主事から事務長まで、階層を問わず6つの班を構成し、3つのテーマ(事務室内のチームワーク、学校での危機管理、学校窓口としての事務室の在り方)から、あらかじめ割り振られたテーマ1つについて班別に討議を行いました。その後、各班の発表者が討議内容を発表し、世代を超えた交流と学校間の連携及び事務職員としての資質向上を図ることができました。

「パソコン研修会」は、1月に県庁OAルームを会場に実施しました。日常業務に役立つよう、ワード2003とワード2007の違いについて勉強しました。インストラクターによる丁寧でわかりやすい指導で、充実した研修を実施することができました。

昨年に引き続き「新規採用事務職員等研修会」も3回実施しました。初回は外部講師を招き「接遇について」



と先輩職員による「給与事務について」の研修を行いました。

2回目以降も先輩職員が講師となり「旅費事務について」・「事務長講話(予算について)」・「服務事務について」・「学校管理」の実務で役立つ内容を中心に研修を行いました。



【各研究委員会の活動状況】

「事務研究委員会」では、研究テーマとして、ここ数年の事務職員の退職とそれに伴う新規採用者の増加が続いています。このような状況の中、若手の事務職員の育成が必要と考え、新規採用者、初任者に対して、ヒントや参考になる「ハンドブック」の作成をしています。少しでも初任者にわかりやすいハンドブックになるよう、アンケートをとり、集計分析を進めています。

「パソコン研究委員会」では、ワード 2007 について研修会を実施しました。日常業務で役立つ実践的な内容を目指しています。来年度も誰もが参加できる研修を、と考えていますので、今まで参加されなかった方も奮ってご参加ください。

●福岡地区(会長 満生 順子)

福岡地区では、会員相互の連絡・調整をとりながら、会員の資質の向上を図り学校教育の発展に寄与することを目的として、研究と研修を行っています。特に、財務会計の適正な処理を重視して、学校間の連携、職員間の連携を大切にしながら点検等の取組を実施しました。また、事務処理能力の向上と学校運営参画意識の向上を目指して、職員が一丸となって様々な業務を行うため、次の活動を行いました。

【3地区ブロック研修会】

定期監査等の指導事項等の状況を踏まえ、事務処理内容の相互点検を行い、疑問点についての意見交換・解決策の研究を通して情報の共有や事務スキルの向上を目的にブロック別研修会を実施しました。

- ・日時 平成 25 年 8 月 26 日(月)～29 日(木) 各ブロック 2 日間
- ・場所 各ブロック内の学校 4 校
- ・内容 1 日目 人件費 旅費(県外) 2 日目 支出(11・13・14・15・18 節)

実施 2 年目であり、お互いに顔見知りとなり活発な点検、意見交換がなされました。

平成 26 年 1 月 29 日には、3 ブロック合同で財務課との意見交換の後に、人権教育研修会「人権意識の育成について～コーチングと傾聴～」を実施し、人とのかかわり方・コミュニケーション能力についてワークショップを行いました。

【初任者研修会】

採用 1～3 年目を対象とした研修会を開催し、市町村からの転入職員を含む 14 名が参加して実務研修等を実施しました。

〈第 1 回〉平成 25 年 7 月 30 日(火) 福岡リーセントホテル 13:00～

事務長講話 2～3 年目職員体験発表 グループ討議(日常業務での問題点)

〈第 2 回〉平成 25 年 10 月 24 日(木) 筑前高等学校 13:00～

筑前高校長講話 実務研修(2 年目職員が講師となり新採職員が希望する「旅費」「高速認定」「社会保険」について研修) グループ討議(日常業務での問題点)

〈第 3 日〉平成 25 年 12 月 20 日(金) 筑紫丘高等学校 13:00～

実務研修(2～3 年目職員が希望する「収入事務」「人事服務」「財産管理」について研修
講師は主任主事及び事務主査)

すべての研修会に事務長が出席して、グループ討議等において助言がなされました。

【事務研究委員会】

平成 24 年度から「施設管理と災害対応について」をテーマに研究を行っています。事務室の視点に立った「危機管理マニュアル」の完成を目指し、平成 26 年度九州 (大分) 大会での発表に向けて、定例的に会議を重ねているところです。

【パソコン研修会】

行コミパソコンの MicrosoftOffice 更新へのスムーズな対応のため、「エクセル 2007 導入講座 (仮) 研修」を行う予定です。

また、「福岡地区パソコン部会」では、筑後地区研究委員会作成によるメールマガジンを、福岡地区会員に送信する作業を行いました。きっと会員の皆様のスキルアップに役立つものと思います。

【地区別研修会】

平成 25 年 9 月 13 日 (金) 福岡リーセントホテル 13:00 ~ 17:00 参加者 47 名

1 グループ討議 (13:30 ~ 15:45)

「学校の省エネルギーを推進するために」

(内 容)

省エネを阻んでいる要因と対策について 6 班に分かれてグループ討議を行いました。

討議方法は、各学校の現状と課題及びその対策として考えられるものを各自が付箋紙に記入し、その内容を順番に発表した後、討議によりベスト 3 を選び、各班での討議結果を模造紙にまとめ、それを会場で発表しました。

参加者からは、「どこの学校でも同じようなことで 苦労しているのがわかった」「他校のバラエティ豊かな年齢の方々とお交わりできてよかったです」等の感想が寄せられました。



2 講話「私たちができる学校の省エネ」(16:00 ~ 16:45)

講師 福岡県環境マイスター 荒木 フサエ 氏

講話本題に入る前に、グループ討議を聞いて「対策」に係る評価及び講師自らの提案を頂きました。

提案として「言葉に出してお願いするより、ポスターなどの掲示物で意識させる方が角が立たなくて良い。」「電気量のグラフを作成したりして、目に見えない電気を目に見えるようにする (目に見えないではなく、見ていないだけ)。」などがありました。

(内 容)

講話本題 「何のための省エネか→地球温暖化防止のため」

(1) なぜ、CO₂が増えているのか? (CO₂ = 人間活動のごみ)

- 産業革命当初と比べ、800 倍の CO₂ を排出。地球が「夏にふとんを被っている」状態になっている。地球の気温変化を私たちの体温と置き換えると深刻さが分かる。

(2) 学校における課題

- 教員、生徒に省エネの意識が薄い。
- エアコン、照明の制限がしにくい。



(3) 学校のできる対策

- 朝礼や職員会議で省エネ、節電の啓発。
- 消費量、支払額の公開(比較のため昨年と今年)、目標値を決める。最初は-5%でも。
- 校長、管理職、担当者による委員会(巡回も)、教室ごとに生徒の省エネ担当を置く。

(4) どこに意識するの

- 夏のエアコンは学習環境づくりに大切。電源をつけたままと、電源のON, OFFを繰り返した場合、消費電力は変わらない。冬の暖房は夏の3倍の電気消費量、むしろ冬に注目。
- 職員室では残業が問題のよう。頑張る人への声掛けをしては。

(5) 講師 荒木氏の省エネ

- 見えない電気を意識する。電気ポットをやかんに、炊飯器を圧力釜に。
- 家族で協力 暑さ寒さが我慢できるようになった。電気代が下がった分で遊びに使いました。
(我慢だけでは長続きしない)

●筑後地区(会長 尋木 啓二)

筑後地区では、会員相互の連絡・調整と会員の資質向上を図るために、次の研修会・研究活動を行いました。また、実務研修の一環として筑後地区県立学校事務長会との共催で筑後地区を南北で2分割して担当業務別研修会、支部単位で監査現地校事前点検会議を実施しました。さらに、筑後地区5支部において支部研修会を行い、その後懇親会を開催し支部内会員の交流を図りました。

【地区別研修会】

平成25年9月20日(金) 福岡県立久留米高等学校

1 研究発表

発表者 筑後地区パソコン研究委員会委員長
福岡県立浮羽究真館高等学校 事務次長 長野 浩臣
内 容 「EUC機能」「ピボットテーブル集計」について

2 課題討議(問題提起・全体討論) テーマ「事務室の課題」

発表者	福岡県立朝倉東高等学校	主事	松永 真澄
発表者	福岡県立八女農業高等学校	参事補佐兼事務次長	河森 俊明
司 会	福岡県立福島高等学校	事務長	尋木 啓二
助言者	福岡県立明善高等学校	参事兼事務長	丸山 稔子

【新規採用事務職員研修会】

第1回 平成25年7月9日(火) 福岡県立福島高等学校

内 容 参事講話、文書、服務、学校運営、採用2年目職員から学ぶ(意見交換)

第2回 平成25年8月29日(木) 福岡県立福島高等学校

内 容 庶務、学事、収入、旅費(実務担当職員による講義・演習)

第3回 平成25年11月29日(金) 福岡県立八女高等学校

内 容 新規採用職員による実践発表、講評、情報交換

【実務研修会】

平成26年1月15日(水) 福岡県教育庁北筑後教育事務所

1 講 義 「財務会計の問題について」

講 師 福岡県教育庁総務部財務課予算係 野口 年隆 氏

2 演習(グループ討議)

テーマ 「定期監査後の課題対策研修」

【事務研究委員会】

筑後地区事務研究委員会は、平成25年7月より5人のメンバーで活動を開始しました。研究テーマについては「教職員手帳」の改訂版を作成することに決定。現在、項目及び内容の検討を行っており、月1回程度の会議を行って研究を進めています。

【パソコン研究委員会】

「集計を楽に」をメインテーマに活動しています。

今年度から、地区別研修会に組み込んでいただいたのを機に、以前作成したピボットテーブル紹介ビデオなどを刷新しました。

内容としては、「行コミ、財務など会計システムから『EUC機能』でデータを取り出し、『ピボットテーブル集計』（エクセル標準機能）で集計する」というものです。

操作に関しても、難しい関数は一切使いません。集計しやすい情報入力を実行するだけです。官公需、監査調書、運営費調査、その他に利用していただけるとよいのですが……。

『EUC機能_ピボットテーブル集計H25.9.20』というファイル名で部共有フォルダの中の\15教育庁\県立学校事務職員協会\03筑後地区にあります。スライドショーで見てください。

つぎに、便利な機能など紹介のメルマガを個人宛に配信しています。これは情報委員会を通じて全学校事務職員にも配布していただいています。

さて、いよいよ導入されたMS Office2007。パソコン研究委員会では研修を始めています。

●筑豊地区(会長 田鹿 純)

筑豊地区は16校の学校で構成されており、学校教育活動の発展・充実に寄与することを目的として、会員の資質向上を図るために研修並びに研究を行っています。

今年度は新規採用職員3人(1人は前年度中途採用)、義務制からの異動者3人及び職種転換職員1人を迎えて、また職種転換実務研修員1人を加え、活発に新規採用職員等研修会が実施されました。

【新規採用職員等研修会】

(1) 第1回 平成25年7月11日(木) 福岡県立嘉穂高等学校

①先輩事務職員講話

鞍手竜徳高等学校 主事 宮内 聡志

嘉穂高等学校 参事兼事務長 古田 哲義

②新規採用職員等スピーチ 7人

③施設見学「旧伊藤伝右衛門邸」

(2) 第2回 平成25年9月12日(木) たがわ情報センター

①パソコン研修会

講師 (株)クリエイティブジャパン 植木 伸一郎 氏

Word 中級程度(書式・図等)

身近な文書から実用的なサンプルを使った研修で、最後に差し込み印刷を学びました。

②意見交換会

日頃疑問に感じていること等を結論を出すことが目的ではなく、8人～9人のグループ2班で意見の交換を行い、今後に向けての参考としました。



(3) 第3回 平成26年1月24日(金)

①実務研修 講師は採用3年目の職員

旅費	東鷹高等学校	主事	小林 秀星
社会保険料	鞍手高等学校	主事	田中 真治
支出	川崎特別支援学校	主事	竹内 千博

②職員の健康づくり

講師	アロマセラピスト	宮近 由紀子 氏
----	----------	----------

【事務担当者点検会議】

今年度の監査実施校に赴き監査期間内の諸帳簿の点検・確認を行いました。

- ・直轄地区 平成25年9月10日(火)、11日(水)、13日(金) 直方高等学校、鞍手高等学校
- ・田川地区 平成25年9月18日(水)、19日(木) 東鷹高等学校
- ・嘉飯地区 平成25年10月16日(水)、17日(木) 嘉穂高等学校、嘉穂東高等学校

【実務研修会】 平成25年9月24日(火) 福岡県立嘉穂高等学校

- (1) 講義 「財務会計事務適正化に向けて」
講師 財務課予算係 主任主事 野口 年隆 氏
- (2) 協議 「質問票の事前集約分等について」

【地区別研修会】 平成25年9月27日(金) パドドゥ・ル・コトブキ

- (1) 講演 「学校教育と事務室の役割」
講師 田川高等学校校長(筑豊地区校長協会副会長) 立石 研一 氏
学校における事務室の役割の重要性を再確認するもので、理解しやすい講演でした。

(2) 研究協議 「これからの事務室を考える」

発表者	福岡県立嘉穂高等学校	主事	平瀬 史織
	福岡県立川崎特別支援学校	主事	竹内 千博
	福岡県立直方養護学校	事務次長	川原 達子
司会	福岡県立嘉穂東高等学校	事務次長	江頭 秀俊
助言者	福岡県立嘉穂高等学校	参事兼事務長	古田 哲義

意思の疎通を図りながら時代の変化に対応する能力を身につけ、今後に向かっていかに取り組んでいくかが発表され、また活発なグループ討議が行われました。



各 研 究 部 報 告

●事務改善委員会(委員長 植木 幸隆)

前年度から事務改善の捉え方を会員の職務遂行支援という観点で、より良い職場環境づくりに役立つ研修を事務職員協会との共催で主催事業として実施してはどうかと本委員会で検討しました。

現在各地区では、地区別、実務、新規採用職員、会計事務研修などが実施されているところです。

そこで、本委員会では全県的な研修を事務改善に係る専門的な位置づけとして、テーマ、内容、講師を選定して、実施したいと考えました。

実施時期は、会員の方が集まりやすい今年度6月から8月を予定していましたが、調整がうまくいかず開催できておりません。

この方針は継続したいと考えていますので、研修の内容、進め方等を改めて協議し、会員の方が参加しやすく、そして時宜に合った内容と情報交換の場となるような形態での開催ができるよう検討していきたいと考えています。

事務改善委員会へのご意見、ご要望等を各地区の委員へお寄せください。

また、今後とも当委員会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

●事務提要委員会（委員長 平尾 昌彦）

事務提要委員会は、今年度も委員会の本旨であります提要4編の追録原稿作成を行っております。なお発行は、活動計画のとおり26年4月の発行を予定しております。

7月5日に毎年定例の第1回県委員会を福岡リーセントホテルで行い、地区別担当箇所等を決め、7月・8月、各地区別に精力的に原稿作りに取り組みました。作業は各地区順調に進み、8月19日、博多青松高校に4地区が原稿を持ち寄り、集約・点検作業を行いました。今年も頻繁に改正がある庶務編等に手こずりながらも、何とか無事に作業を終えることができました。

9月26日、財務課へ原稿を持ち込み、原稿チェックの依頼をしました。

今年度も庶務編のボリュームが多かったのですが、財務課をはじめ、教育庁各課のご協力により、11月13日に全ての原稿が戻ってまいりました。

12月6日、博多青松高校で原稿の手直しを行い、以後、業者に原稿を送り、校正作業を経て本追録の発行となります。「事務提要ライブラリー版」につきましても、平成24年度版は5月20日に更新、平成25年度版も全メンバーで12月から修正に着手し、こちらも5月中には更新したいと頑張っております。

ここで昨年から引き続きのお願いとなりますが、提要委員が希望したときは、所属に「一太郎」の購入をお願いできませんでしょうか。ご承知のとおり、行コミパソコンの更新に際し、ライブラリー版原稿の大半を占める一太郎が配備されません。ワードへの切替は、大部分の一太郎派委員にとって既に、技術的にも時間的にも重い負担となっております。作業効率や委員のストレスにご理解をいただきまして、ご協力をお願いしたいと思います。

「文書分類表」の更新につきましては、3月に「D:学事」の部分と、5月に「A～C:共通」及び「D:学事」の完全版をライブラリーに搭載配布しています。来年度版の作業も同様の日程になると思われます。

分類表の更新作業につきましては、新年度当初の文書事務のための2段構えであること、また、システム上、自力入力であることは致し方ないことと多少の遅れはご理解いただいて、今後ともご協力をお願いいたします。なお、先日行ったアンケートを元に新しい文書分類表の制作作業中です。（「A～C:共通」以外）

また、事務提要委員会では、会員の皆様のご意見・ご要望等を寄せていただくため、「め安箱」を協会のスマートページに設置しております。（スマートページ>G教育庁のフォルダにあります。）皆様、大いにご活用ください。

さらに、委員は多忙な本務の合間を縫って、多くは自分の時間を割いて活動しており各地区の地区委員の皆様にも鋭意ご協力をいただいております。加えて、事務提要委員会の編集等の活動に際しましてご協力いただきました関係機関や事務提要委員の皆様には大変感謝しております。

最後に、会員の皆様におかれましては、今後とも事務提要委員会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

●情報委員会（委員長 松尾 重治）

1 平成25年度の活動

今年度はホームページ管理規程(案)の検討を行い、作成することが出来ました。今後、然るべき審議と手続きを経て承認して頂けるものと思います。ホームページの充実化に向けての取り組み、作業が行われることとなりますが、皆様の活用を是非ともお願いします。また、筑後地区パソコン研究委員会の

活動(パソ研メルマガ No.017)を会員の皆様に紹介しましたが、これからも便利な情報や資料等を提供していく予定ですので、ご理解とご協力をお願いします。

ところで、共有フォルダの使用状況について、実態の把握を行いました。この結果を検証し、今後の取り組みに活かしていくつもりです。

なお、今年度は活動の一環として、学校見学を実施しました。見学先は専門学校でしたが、学校の説明を受け、施設設備等を見学させて頂き有意義なものとなりました。最先端の技術を備えた情報関連機器とその規模、また、社会に有為な人材育成に取り組む学校の教育方針等お聞かせ頂き、とても参考となりました。今後の活動に活かしていきたいと、委員一同気持ちを新たにしているところです。

2 活動状況

- (1) 第1回 平成25年7月22日(月) 福岡リーセントホテル
平成24年度の活動について
平成25年度事業計画について
- (2) 第2回 平成25年10月30日(水) 福岡リーセントホテル
ホームページ管理規程(案)について
情報委員会調査・アンケートの検討
- (3) 第3回 平成25年12月19日(木) 麻生情報ビジネス専門学校福岡校
学校見学
ホームページ管理規程(案)について
アンケートについて
- (4) 第4回 平成26年1月27日(月) 福岡リーセントホテル
ホームページ管理規程(案)について
アンケート結果の検討

各 研 究 大 会 等

◎福岡県立学校事務職員協会研究発表会並びに総会

開催日 平成25年5月28日(火)

会 場 福岡リーセントホテル

研究発表は、三池工業高等学校の小田雅子事務長と八女農業高等学校の今津屋修事務主査が6月の沖縄大会で発表される「事務職員と私費会計について」をダイジェストで発表されました。また特別講演では、東筑紫短期大学の池田茂樹教授により、『「創造性あふれるライフスタイル」について』と題したご講演がありました。会場を駆け回るように、楽しくお話されたのが印象的でした。

総会においては、昨年度の九州大会で研究発表をされた稲築志耕高等学校の中島悟事務主査、嘉穂高等学校の小森佳子主任主事、直方高等学校の山崎修平主事、前会長である戸畑高等学校の杉山武参事兼事務長ほか旧役員の方、合計11名の方に感謝状をお渡ししました。また浜田会長より新規採用者の紹介が行われました。新規採用の方々とは同日夜行われた懇親会にも多数参加され、スピーチ形式の自己紹介は大変盛上がりしました。なお、議案は全て提案どおり議決されました。

◎第61回九州協議会研究大会並びに総会

開催日 平成25年6月13日(木)～14日(金)

会 場 浦添市てだこホール

今年度の九州大会は沖縄県浦添市で開催されました。九州各県から 518 名（うち本県から 70 名）の参加があり、心配された梅雨時の天気は小雨が一時降った程度でした。

研究発表は、三池工業高等学校の小田雅子事務長と八女農業高等学校の今津屋修事務主査が「事務職員と私費会計について」という研究テーマで発表されました。詳しい内容は大会の冊子、又は部共有の次の場所にも保存していますので、ぜひご覧ください。（保存場所：部共有\15 教育庁\県立学校事務職員協会\研究発表）

また特別講演では、学校法人興南学園の我喜屋優（がきやまさる）理事長兼校長により、「逆境を生き抜く力」と題したご講演がありました。我喜屋氏のご自身が主将として出場された、第 50 回全国高等学校野球選手権大会で沖縄県勢初のベスト 4 となり、監督としても何度もチームを甲子園に導かれ、春夏連続優勝というに輝かしい実績を持たれています。それに至るまでのご苦労や体験談を聴くことができ、人の力の素晴らしさを感じました。



功労者表彰では、昨年度九州協議会の会長をされた戸畑高等学校の杉山武参事兼事務長ほか、本県からは合計 10 名の方が表彰されました。

総会においては、全ての議案が提案どおり議決されました。

来年度は大分市（平成 26 年 6 月 12 日（木）～ 13 日（金））で開催されます。



◎第 66 回全国公立高等学校事務職員研究大会、総会

開催日 平成 25 年 7 月 25 日（木）～ 26 日（金）

会場 岐阜市文化センター・じゅうろくプラザ

今年度の全国大会は岐阜市で開催されました。全国から 917 名（うち本県から 58 名）の参加がありました。大会期間中は猛暑も和らぎ、夜間ライトアップされた岐阜城で、パノラマ夜景を楽しまれた方もおられたようです。

研究発表は本県からの発表は今回ありませんでしたが、1～3 分科会で計 9 本の研究発表がありました。午後からはそれぞれの分科会で基調講演や事例発表があり、その後のシンポジウムや班別討議では活発な意見交換が行われました。

記念講演では、国立天文台の林正彦台長により「現代の宇宙像」と題したご講演がありました。普段はあまり聴けない宇宙の話に参加者も興味津々で、講演終了後たくさんの質問がありました。

文部科学省講話では、高校教育改革プロジェクトチームの名取瑞樹係長により「高校教育における諸課題について」と題した講話がありました。高等学校等への進学率、学科数、中高一貫教育校数、及び高校生の校外における平日の学習時間の推移、近年の高等学校教育改革の動向、公立高校の授業料無償制等々についてお話されました。

総会においては、全ての議案が提案どおり議決されました。

功労者表彰では、本県からは 6 名の方が表彰されました。

来年度は岩手県盛岡市（平成 26 年 7 月 24 日（木）～ 25 日（金））で開催されます。



中堅事務職員研修会報告

開催日 平成 25 年 11 月 22 日 (金)

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)

小倉商業高等学校 事務次長 井川 めぐみ

開会式後、日本教育新聞社 編集局長 矢吹正徳氏の講演が行われました。最近の教育改革論議について、制度の導入意義、現状や問題点、これからの動向などの話をされ、中でも「高校無償化の見直し」「土曜授業の導入」「特別支援教育の充実」「初等・中等教育におけるグローバル人材育成」については、とても興味深く聞くことができました。

午後からは、「事務職員に必要なスキル、心構えとは何か」について、グループ討議が行われました。各班、共通して出されたのが「コミュニケーション能力」が必要という回答で、それぞれの班からは象徴的なエピソードが紹介されました。その中で多々ある情報の中から必要な情報を自らつかみにいく姿勢はできているか、学校の現状を知り、いかに仕事に反映させるかなどの意見が出され、今の自分にできているのか問い返すきっかけになったと思います。

また私達の班では「やさしさ」という答えも同時に紹介いたしました。「事務職員に必要なスキル」に「やさしさ」というのは、意外な感じがしますが、沖縄県から参加された事務長さんが、以前、自分たちで企画した「わかりやすい資料作り」という研修で、講師の方からの「ノウハウも大事ですが、最終的には人に対する『やさしさ』がベースなんですよ。」という言葉に感銘を受けたという話をされ、それがとても印象的でした。

最後に文部科学省講話があり、「公立高校の授業料無償化及び高等学校等就学支援金を中心に」という内容で、私達の仕事に直結する話を伺うことができました。来年度より公立高校での授業料は原則徴収とし、私立高校と同様、就学支援金を支給するという内容であり、また就学支援金の支給には所得制限を設けるとの説明がなされました。

今回、このような研修に参加させていただき、班別討議では他県の方のいろいろな話を聞くことができたことが、とても有意義で、また自分を省みる機会となりました。

福岡高等学校 事務次長 木下 賢司

国立オリンピック記念青少年総合センターにて行われた研修会に参加した。

全国から中堅クラスの事務職員約 70 名が一同に会したものである。

研修は、「最近の教育改革論議」と題して、日本教育新聞社編集局長 矢吹 正徳 氏による講演から始まった。

現在、安倍内閣が推し進めている施策の一つである教育再生は、経済再生と並ぶ当該内閣の最重要課題であると言われており、教育委員会改革、大学入試改革、学制改革や授業料無償化見直しなど複数項目に及ぶ教育界全体を大きく変革するものばかりであるという内容であった。

これらの改革が進めば、事務職員が日頃こなしている業務内容も大幅に変わることになるだろう。

今後の動向に注目しつつ、広くアンテナを張り、教育行政全体に目を向けていくことが必要だと感じた。

続いて午後からは、「学校事務職員に必要なスキル、心構えとは何か」とのテーマで受講生を数班に分け、グループ討議を行った。私の班では、「生徒のために何をなすべきかということ念頭におくことが重要である。」というコンセプトのもと、意見を取りまとめ発表を行った。他県の事務職員と研修によって意見を交わす機会などこれまでなかったため、とても新鮮でかつ有意義なものとなった。

最後の文部科学省講話では、授業料無償化見直しや就学支援金等に携わっている文部科学省の職員が講師となり、これらにかかるアウトラインや規程整備の進捗状況等について説明があった。このような情報を一早く手に入れることができるのも、この研修会に参加したことのメリットだろう。

研修会終了後には、教育懇談会に参加し、全国から集まった事務職員との情報交換を行った。

今回の研修会全般において、参加してよかったなと思える事の一つに情報交換がある。例えば宮城県の震災に伴う公的書類が徴せない中で事務処理を行った体験談を聞き、災害時における業務のあり方を考え

させられた。また、技能員の視点で見た施設の維持管理について、技能員講師による研修会を実施した県があったりなどと、発想の転換によって、業務を別の角度から見てみることも大切だと学ばされた。

各県のような取り組みや状況などを生で知ることができたと共に、これを今後、事務職員として業務の幅を拡げていくことに活かしていければと感じた。

柳河特別支援学校 事務次長 加藤 孝

午前中の研修として、日本教育新聞社の矢吹氏より「最近の教育改革論議について」という題目で、高校授業料無償化の見直しや土曜授業の導入、特別支援教育の充実、初等中等教育におけるグローバル人材育成等、教育再生に向けた国の動向について説明及び自論を交えながらの講演がありました。

目の前の仕事をこなすだけでなく、最新の国の動向や周囲の情報に耳を傾けるとともに、何事も様々な角度から考察することの大切さを痛感しました。

午後の研修では「学校事務職員に必要なスキル、心構えとは何か」について班別討議を行いました。まずは自分の学校のことをよく知ること、そのためにも教員や様々な方からの意見や情報を収集できるようコミュニケーション能力を磨くことの大切さ、そしてそれを業務に生かす必要性について確認しあいました。他にも窓口対応、クレーム処理、人員削減・職場環境の変化への対応、学校経営へ参画する重要性等についての討議を行いました。

また総務事務センター化が進んでいる県においては、システム操作のスキルは向上しているが、その根拠法令等を調べる意識が希薄化していることに苦慮しているとの話があり、いずれ本県においても問題になるかもしれないと考えさせられました。

文部科学省講話では「高校教育改革の動向について」初等中等教育局の片山氏から、公立高校の授業料無償制及び高等学校等就学支援金についての現在の動向についての説明があり、大変興味深い内容のものでした。

最後に各県の課題や現状など様々な情報を交換することができ、今後の業務に役立つ大変有意義な研修でありました。

田川高等学校 事務次長 森永 竜太郎

平成 25 年 11 月 22 日東京都の「国立オリンピック記念青少年総合センター」において開催された中堅事務職員研修会の概要について報告します。

最初の研修は、「最近の教育改革論議について」と題して、日本教育新聞社編集局長 矢吹正徳氏の講演が行われました。講演の内容は、教育再生は経済再生と並ぶ現政権の最重要課題であること、教育改革における文科省側と財務省側の理論の違い、文科省が今後重点的に構築しようとしている「初等中等教育におけるグローバル人材育成（『スーパーグローバルハイスクール』の指定・支援、英語教育強化）」事業等、昨今の教育改革論議について、報道記者の観点から見た意見等でした。ニュース等でもよく取り上げられる話題でもあり、非常に興味深い講演でありました。

2 番目の研修は、「学校事務職員に必要なスキル、心構えとは何か」というテーマでグループ討議があり、参加している事務職員のそれぞれ置かれている立場から意見が出され、活発な討議が行われました。その中で興味深い意見として、ある県の方が話された「事務職員は常に現状を把握しておくことが重要である。」ということでした。何か現状を変化させる要因が発生した場合、その要因に伴う影響は果たしてどれくらいあったのかということが速やかに判断できるためにとの趣旨でありました。

最後の研修として、文部科学省初等中等教育局財務課高校修学支援室専門官 片山達也氏による文部科学省講話が行われました。

講演の内容は、平成 26 年 4 月から導入される予定である、高等学校授業料無償制度の変更について講演当日現在での文科省の案についてのものでした。内容としては、講演というよりはむしろ事務説明会に近いようなものとなりましたが、導入までもう半年を切っていることもあり、非常に参考となるものでした。

今回、研修に参加させていただき、貴重な体験をすることができました。

本当にありがとうございました。



「無題」

朝倉 末男 (元博多青松高等学校参事兼事務長)

平成 18 年 3 月 31 日退職

私の毎日は、タイトルの頁「至足優游」とは言い難く、どう書こうかと戸惑っているうちに閉め切り間近となり、小学生の子が夏休みの宿題に追われる気持ちになってしまいました。

もともと勉強嫌いで、学校も好きではなかったものが、昭和 44 年 5 月に学校に勤める事になりました。初任校は昭和 37 年に開校した宇美商業高校で、分担事務は初任者の誰でも経験する収入事務でした。3 ヶ月もすると、このまま事務職員を続けるのはどんなものかと、生来の飽きっぽい性格が頭をもたげたが、翌年、物品担当となったことでこの考えをする暇がなくなってしまいました。昭和 45 年、学習指導要領の改訂で、工業高校には情報技術科そして商業高校には情報処理科が設置されることになりました。翌 46 年には勤務校に情報処理科が設置されることが決定され、事前準備として、この年は実習教室の建築、物品の調達、実験実習費算定・教科書の作成や情報担当教員の養成等事務も教務も担当は大車輪の毎日が続くことになりました。特に県内 4 校のトップをきって入札した汎用コンピュータの購入事務や一連の実習備品の入札事務等は、担当 1 年目としては荷は重く、頼りは「財務提要」1 冊だけでした。その後財産・支出・給与等転勤するまでの 8 年 7 月の間、担当分掌を次々に変わることで、いつも「財務提要」や「教育関係者必携」が手垢で黒くなってたほどで仕事も楽しくなりました。

53 年 1 月元旦、第二次ベビーブームに対応するため、54 年に開校予定の高校を 1 年繰上げて仮校舎で開校することが伝えられました。今からでは勤務する人は大変だろうと、この時は他人事のことと思っていたのですが、この大変なことを自分が引き当ててしまいました。この時 32 歳。1 月 20 日の辞令交付から福岡市中央区の福岡盲学校（4 月に盲学校は朝倉街道に移転、現在は知事公舎となっている。）の開設準備室に勤務する事になりますが、何もかもが新しい仕事ばかりで、しかも 4 月開校ということで時間がなかった。出勤 2 日目、1 番早く出勤したつもりではあったが、すでに部屋の掃除を終えた年輩の校長がお茶を飲みながら書類に目を通していました。何日かこのような朝が続き、やっと一番乗りなることできたのは 7 時半前でありました。このときから退職をするまで 28 年間事務室一番乗りを心懸けました。

さて、平成 17 年の九州協議会福岡大会に関わることになりました。大会の責任者として開催 2 週間前までいろいろ心配していたことが、開会の 1 週間前にはすべての問題が一気に解決され爽やかな気持ちで当日を迎えることが出来ました。そして関係者が一致団結することにより大会を成功させることができました。このとき、若い人達には驚くようなパワーが備わっているのだな感心させられました。この人達は日頃から自分の仕事に対し、常に意識を持って対処しているのは間違いないと断言できます。同じ年、福岡西方沖地震がありました。その時、皆さんはどのような行動をしたのでしょうか。通常とは違う場面でその人の力が量られます。

以上、飽きっぽい性格の私が、37 年間事務職員として過ごすきっかけとなった初任校での体験、そして定年までに経験したほんの一端を記すことで「至足優游」に変えさせていただきました。

NHK のテレビ「日本縦断こころ旅」で火野正平が番組の中で叫ぶ「人生、下り坂最高！」を参考に、これからの人生を「人生最高の時！」として過ごすことができるよう今日も公園を散歩しています。